

TTCセミナー 国際標準化活動の最新動向

国際標準化活動における若手活躍のすすめ

ー加速する多様化促進ー

2023年1月31日

日本電気株式会社

永沼美保

\Orchestrating a brighter world

NECは、安全・安心・公平・効率という社会価値を創造し、
誰もが人間性を十分に発揮できる持続可能な社会の実現を目指します。

講師略歴

永沼美保

日本電気株式会社

デジタルトラスト推進部 上席プロフェッショナル

(兼) レギュレーション調査室 室長

外資系ベンダー、日系セキュリティベンダーを経て、2015年より日本電気株式会社。

2002年より標準化活動を開始。情報セキュリティ、サイバーセキュリティ領域を中心に、デジュール標準、地域標準、国内規格等の標準開発や国際機関でのグローバル議論に参画。

(ITU・APT関連)

2008年～ ITU-T SG17 課題3ラポータ

ASTAP EG IS議長

2011年～ ITU-D SG2 課題3 副ラポータ (2021年まで)

2018年～ ASTAP WP3議長

2022年～ ITU-T TSAG副議長

2022年10月 ITU WISE* Leadership Award受賞

*The ITU Women in Standardization Expert Group

その他、総務省 情報通信審議会 情報通信技術分科会 ITU部会 専門委員、同部会 電気通信システム委員会 副主査 等

国際標準を取り巻く環境

**国際標準化を取り巻く環境はこの10年で激変
時代に即したマインドセットで国際対応できる人材の育成が必須**

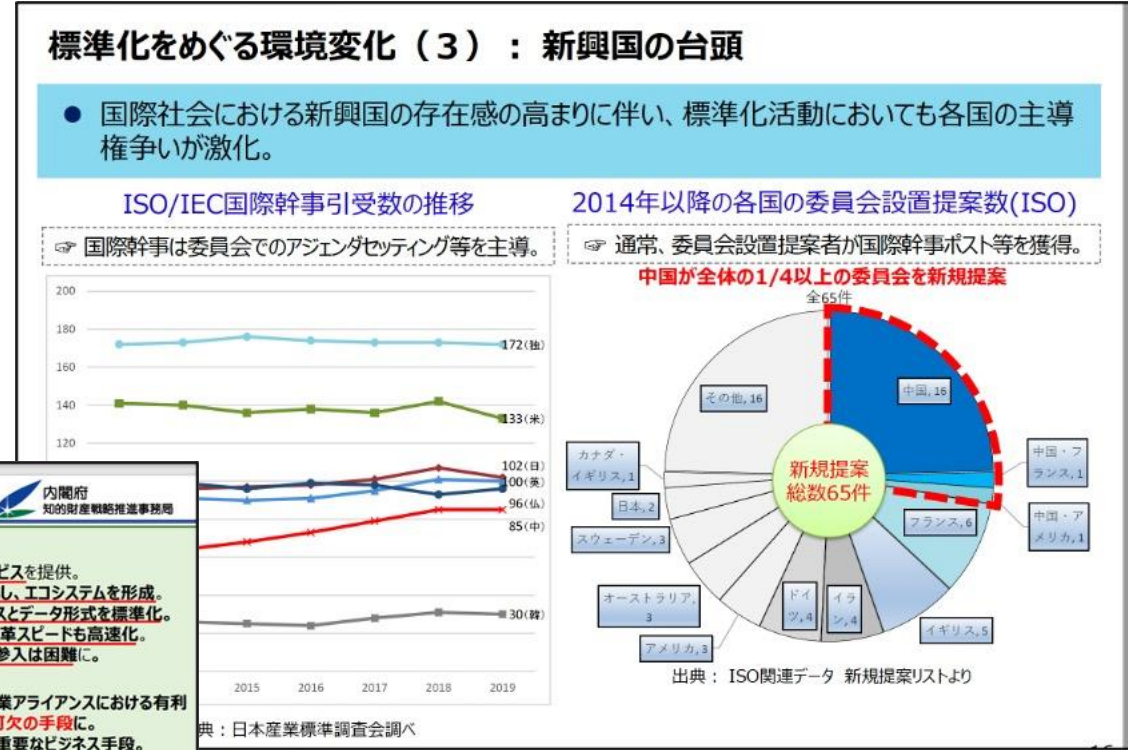
- ◆ 標準化議論の対象は技術仕様から、「サービス、アーキテクチャ、フレームワーク、マネジメント」へ拡大
 - 社会システム、組織ガバナンス、環境、SGDs、倫理等のトピックも議論の対象
 - With/Postコロナに向けた新領域への拡大
- ◆ それに伴い、ステークホルダー・プレイヤーも拡大
 - 2010年代以降からの中国の急激な台頭
 - 途上国からの参加も増加
 - 役職者ポストが争奪戦になるケースも発生
- ◆ 新たな要求に答えるため、各組織におけるルールが頻繁にアップデート

日本における課題

◆ 国内では国際動向分析に基づき日本の課題を抽出、各所での共通課題が見られる

■ 次世代人材の育成

■ 主要組織における幹部職、リーダーシップ職、参加者数の増大に向けた施策



1. 国際標準の戦略的活用の重要性の高まり

近年のグローバル・ビジネス競争の特徴として、プラットフォーム上で多様なハード・ソフト技術を組み合わせ、拡張発展性のあるサービスを提供。提供価値を実現するためのシステム構成設計(アーキテクチャー)を異分野連携で標準化し、エコシステムを形成。

- プラットフォームと多様な装置・アプリ・アルゴリズムが接合できるように、インターフェースとデータ形式を標準化。
- サイバー・フィジカル・システム(CPS)に基づくサービスの実現スピードが速まり、発展・変革スピードも高速化。
- ネットワーク化により、ビジネス規模が急速に拡大。ネットワーク外部効果により、新規参入は困難に。
- SDG's等の社会課題に照らした評価尺度を標準化することで、競争ルールを変更。

このようなネットワーク・プラットフォーム戦略により、ゲームチェンジ、ルール形成、国際企業アライアンスにおける有利な陣取りを行って、国際市場における競争優位を確立する上で、「標準戦略」が不可欠の手段に。国際市場で、技術で優れても、競争優位を得られないとの事態を回避する、極めて重要なビジネス手段。

国際競争戦略として諸外国が駆使する「国際標準の戦略的活用」が、我が国でも急務。

デジタル化による産業構造変化（コロナによるニューノーマル）

産業構造が「ピラミッド型」から「レイヤー型」へ変化

IoT・センサー技術、通信技術、AI技術等の革新によりモノがネットワークでつながる「サイバーフィジカル」へ競争の焦点はシフト

標準化に関する懇談会を開催しました (METI/経済産業省) 資料より

総務省 | ICT利活用の促進 | 高度ICT人材の育成 (soumu.go.jp)

新たに求められる課題と対応

1. デジタル標準においても、議論の領域の重複が課題

- 主管と協調の線引きがより難しくなっており、より多くの場での交渉の参加が必要
- 参加者は、それぞれの交渉場所が求めるルールや手順等の幅広い熟知やリエゾンの理解が必要

2. 標準化のタイミングの見極めが必要

- 標準どのように使うかの戦略的目的によりタイミングの見解が分かれる
- 自組織での市場動向と標準化のタイミングの見極めが求められる

3. 参加者の多様化に伴い、意見の対立の場面が増加

- 各者の思惑・見解の違いによる、意見の対立が増加している
- 現場での対応には、高度なスキルや影響力が求められる

4. 2010年代後半より、ステークホルダー・プレイヤーへの多様性促進の動きが急激に加速

- 多様性促進のための新たな取組やルールが導入されるケースが増えている
- 海外のステークホルダーの多様化の流れは確実。日本からの参加者も多様性を求められると同時に、多様なステークホルダーへの対応が今後新たな課題

新たに求められる課題と対応

1. デジタル標準においても、議論の領域の重複が課題

- 主管と協調の線引きがより難しくなっており、より多くの場での交渉の参加が必要

- 参加が必要

2. 標準

- 標準

- 自

3. 参加

- 各者

- 現場

4. 2010

激に

- 多様性促進のための新たな取組やルールが導入されるケースが増えている

- 海外のステークホルダーの多様化の流れは確実。日本からの参加者も多様性を求められると同時に、多様なステークホルダーへの対応が今後新たな課題

これからの人材は、
従来の専門領域の知識・標準化の手順・ルールの理解に加え、
自組織の標準化戦略と事業戦略の理解、国際的な動向の把握、
多様な人材との国際交渉スキルがより求められます

これらを支える育成プログラムが必要です

が急

ホットトピック

環境対策 (主に7,9,12,13)

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



多様性の促進

- ジェンダー間格差解消
→ 女性参加と活躍の促進
(主に4,5,10)
- 年代の多様化
→ 若者の参加促進

格差解消

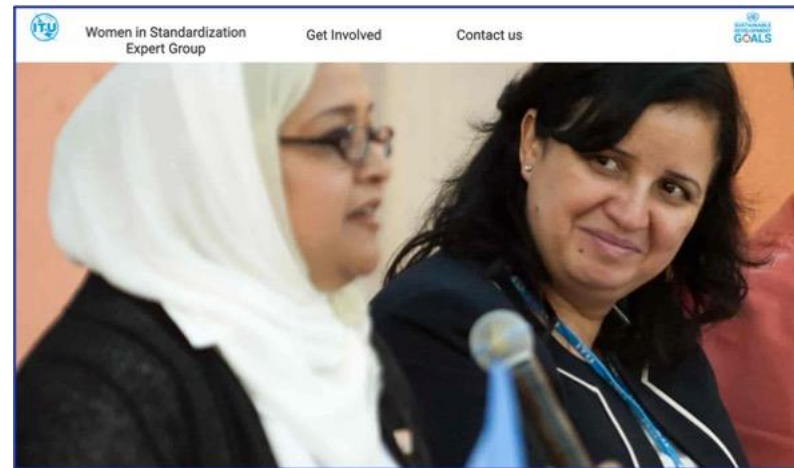
多様なステークホルダー間での格差解消
(AII)

Women in Standardization Expert Group (WISE)

TU-T 決議55 (ITU-Tにおけるジェンダー公平性の推進) により、ITU-Tの全活動にジェンダー視点を含めTU-T活動およびリーダーシップ役割への女性の積極的な参加を促進



TSB局長のもとで、女性の標準化参加のための議論、統計の提供や、メンタープログラムの運営を行う



議長はRim Belhassine-Cherif氏 (チュニジア、右下写真の右側)、副議長はHyoung Jun Kim氏 (韓国)

<https://www.itu.int/net4/mob/wise/>

[Home](#)
[ITU](#)
[General Secretariat](#)
[Radiocommunication](#)
[Standardization](#)
[Development](#)

[About ITU-T](#)
[Events](#)
[All Groups](#)
[Standards](#)
[Resources](#)
[BSG](#)
[Study Groups](#)

ITU WISE – Why Gender Matters in Setting Standards

YOU ARE HERE [ITU](#) > [HOME](#) > [ITU-T](#) > [WTSa-20](#) > [WISE EVENT](#)

ITUEvents

Why gender matters in setting standards


A women in standardization expert group event


Geneva, Switzerland
8 March 2022

Co-located with:

ITUWTSa-20
GENEVA2022

Organized by:






ITUWTSa-20
GENEVA2022
1-9 March 2022
Geneva, Switzerland

WTSa-20

The World Telecommunication Standardization Assembly is held every four years and defines the next period of study for ITU-T. WTSa-20 is planned to take place in Geneva, Switzerland, 1 to 9 March 2022 preceded by the Global Standards Symposium on 28 February 2022. [Read more.](#)

[ITU WISE - Why Gender Matters in Setting Standards](#)
A women in standardization expert group event
08 March 2022



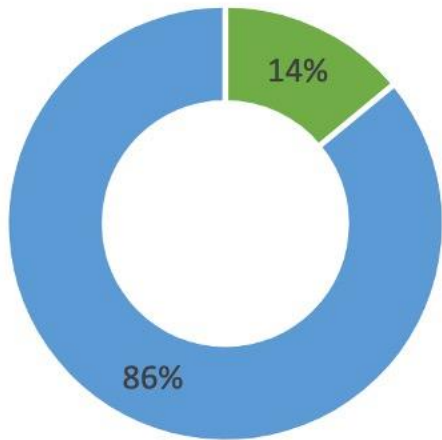
1. Opening挨拶
2. オーストラリア国連大使の基調講演
オーストラリア-ITUの覚書締結
3. カメルーン通信大臣 挨拶
4. 表彰式：影響力、継続性、リーダーシップからの貢献者への表彰
5. 基調講演 『新しいアルゴリズムの分割：人工知能による性別の偏見と公平性の理解』（Anjana Susarla氏、ミシガン州立大学教授）
6. ITU-Tのジェンダー状況報告（TSB）
7. パネル 『標準策定においてジェンダーが重要な理由』
パネリスト：Hyoung Jun Kim（WISE副議長）、Cristiana Flutur（ルーマニア）、Anne Rachel Inne（ITUアフリカ地域事務局）、Nevine Tefwik（エジプト）、永沼（NEC、日本）

標準化においてジェンダー議論が重要な理由
<https://www.itu.int/en/ITU-T/wtsa20/wise/Pages/default.aspx>

ITU-T活動へ参加（ジェンダー別）

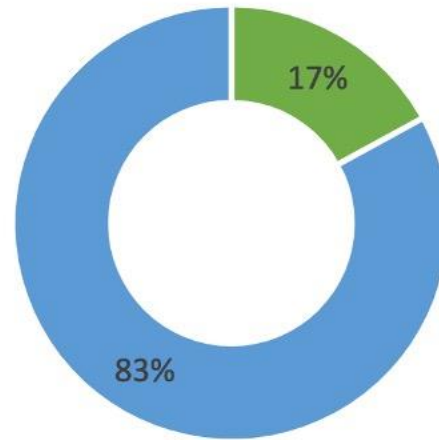
ITU-T Events

2009-2012



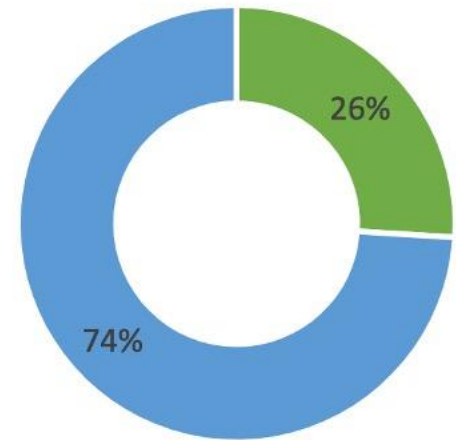
■ Female ■ Male

2013-2016



■ Female ■ Male

2017-2020



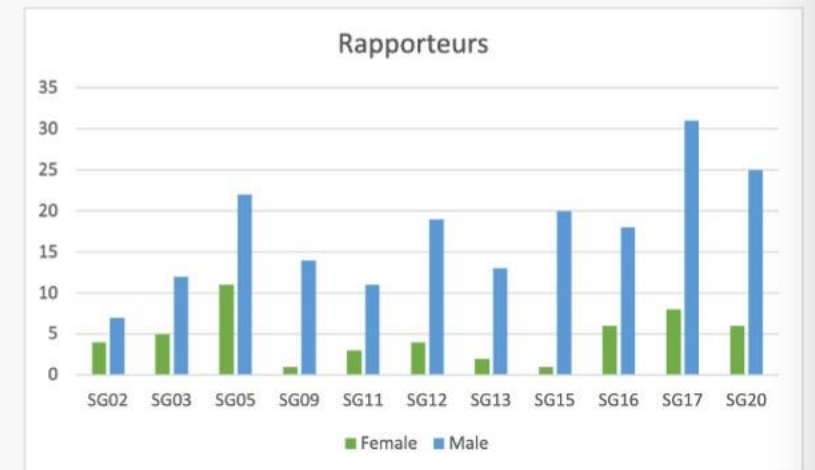
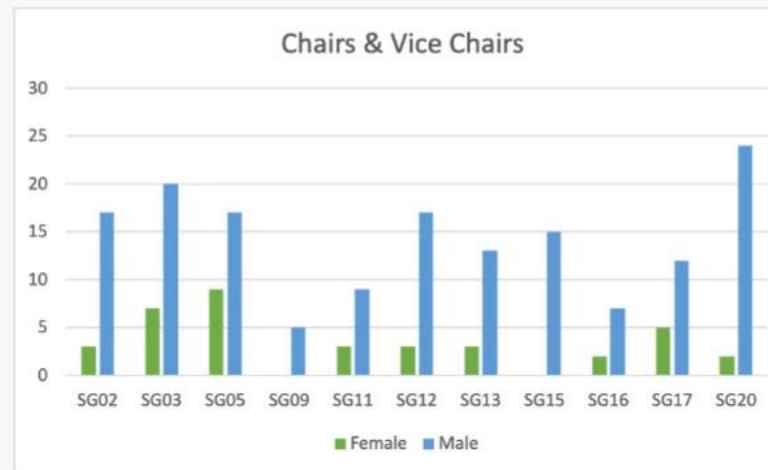
■ Female ■ Male

[ITU Women in Standardization Expert Group \(WISE\)](#)

リーダーシップ役職者数のジェンダー比較 (ITU-T)

Green:女性、Blue:男性

Leadership in ITU-T

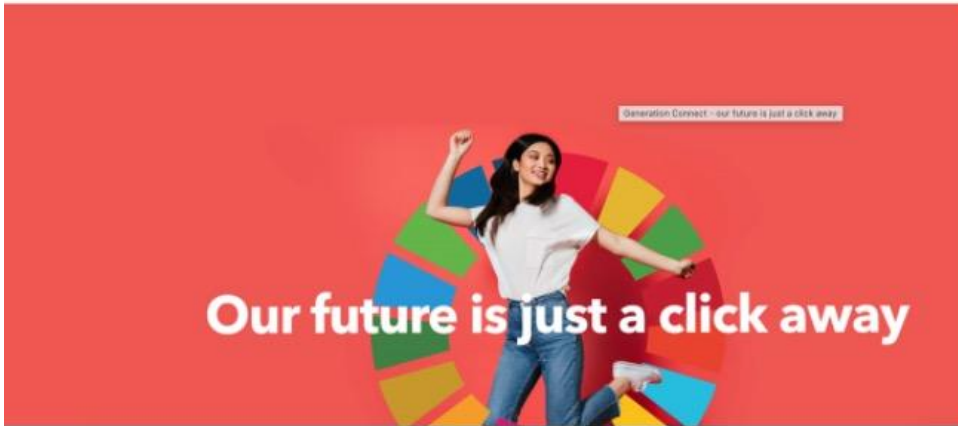


[ITU Women in Standardization Expert Group \(WISE\)](#)

(ご参考) Generation Connect



ITU Generation Connect About Regional Youth Envoys Visionaries Board Podcast YOUTH SUMMIT Social Media



Areas of action



Supporting youth empowerment by creating a community of young leaders.

Explore



Bringing young people together to engage with ITU and its members.

Explore



Fostering youth dialogue and participation in ITU activities and decision-making processes.

Explore

About Generation Connect



Generation Connect aims to engage global youth and encourage their participation as equal partners alongside the leaders of today's digital change, empowering young people with the skills and opportunities to advance their vision of a connected future.

Discover more >



What does it mean to be connected?



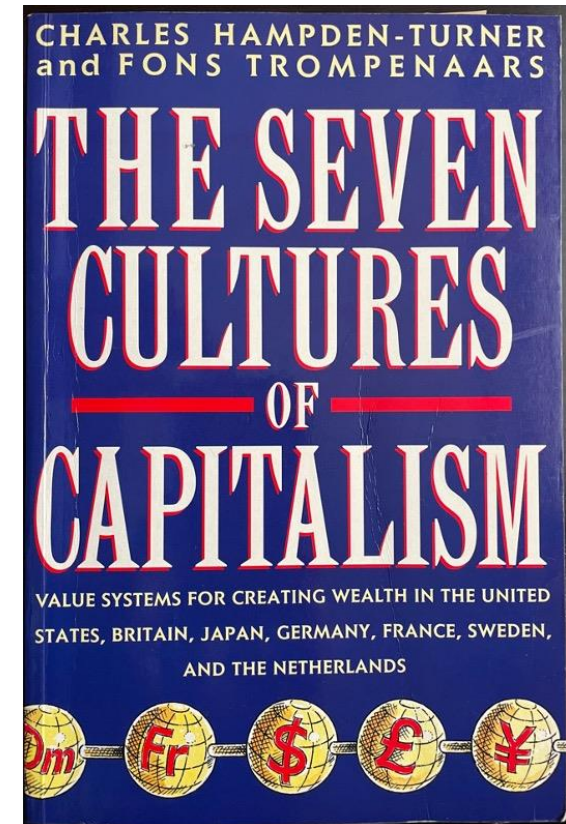
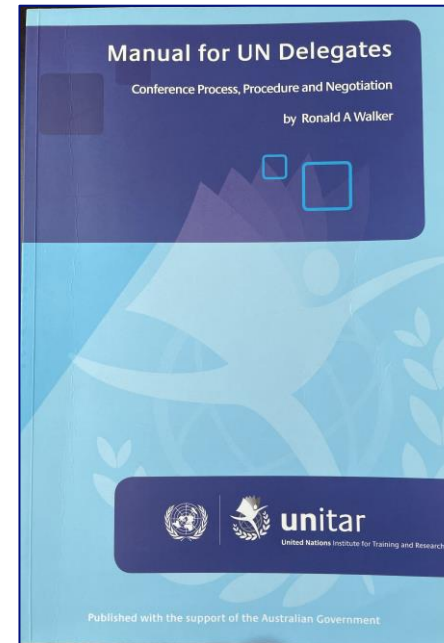
Highlights of the Generation Connect Global Youth Summit 2022

<https://www.itu.int/generationconnect/>

国際会議に向けた話をいくつか・・・

多様性促進の観点から、多くの方に活躍の場が広がっています

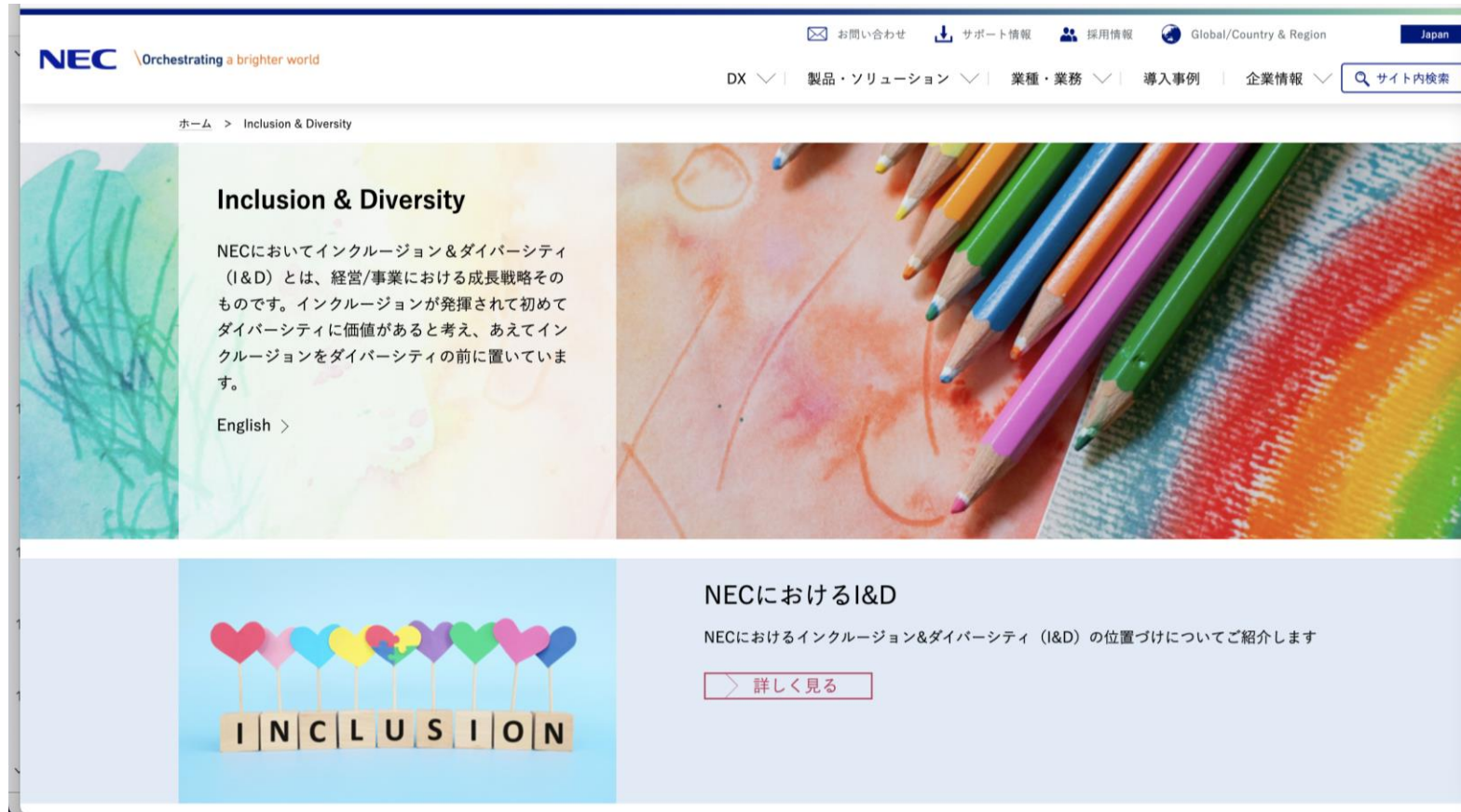
- ◆ New Comerや若手・女性参加者への対応
 - 少数派が不安なのは皆同じ
 - 組織全体でケアする方向へシフト
- ◆ 今どきの国際会議で求められる行動
 - 相手への尊重
 - 透明性、情報開示
 - オフラインと公開議論のバランス
 - ルール・ガイドライン・マニュアルへ準拠
 - 英語の使い方をアップデート
- ◆ それぞれの「国」の特性や議論の傾向を知る



本スライドでお話した内容は、講師個人の見解に基づくものです。

また、文献には1993年発行のものが含まれており、当時の社会状況に基づく記載が含まれることをご了承ください。

(ご参考) Inclusion and Diversity への取り組み



<https://jpn.nec.com/inclusion-diversity/index.html>



NEC Stories
<https://jpn.nec.com/corporateblog/202207/01.html>

\ Orchestrating a brighter world

NEC